



今月の題字
こう き
中島光基君
(大浦小3年)

町のあたい

産業活性化推進協議会が設立 各分野から町の振興策を検討

山田町産業活性化推進協議会が設立され、8月6日に第1回の会合が行われました。町の産業活性化策を検討するため設立されたもので、農業や漁業、商工業各分野の生産者や代表者と学識経験者からなる委員19人で構成されています。委員長には県立大の遠藤昌雄教授が選任され、沼崎喜一町長から産業の現状と課題が説明されました。続いて行われた懇談では、それぞれの立場から活発な意見が交わされていました。今後は調査や検討を重ね、来年9月ごろをめどに活性化の具体策を盛り込んだ提言書を作成し、町に提出する予定となっています。



交通死亡事故ゼロ1年間達成 本町に賞賛状が贈られる

8月19日で交通死亡事故ゼロ1年間を達成した本町に、県警察本部(保住正保本部長)から賞賛状が贈られました。21日に役場で行われた授与式には、沼崎喜一町長と交通安全協会山田支会の川村敬一支会長、交通指導隊の野崎文子隊長、交通安全母の会連合会の野田和子会長が出席。宮古警察署の佐藤哲夫署長から「交通安全は最大の福祉だと考えています。これからも安全運転を心掛けてください」と賞賛状が手渡されました。これに対し沼崎町長は「昨年の交通事故非常事態宣言の発令から、関係者と町民が一丸となり努力したたまものです。最長記録を目指して頑張りたい」と決意を新たにしていました。



佐々木フミさんの100歳を祝
 い、平安荘からパースデーケ
 キが贈られました(上写真)。
 齊藤大黒さんはご家族と共に
 長寿を祝いました(右写真中央)



佐々木さんと齊藤さんが100歳に 周囲から暖かい祝福受ける

船越の佐々木フミさん(明治41年8月11日生まれ)と中央町の齊藤大黒さん(同8月26日生まれ)が満100歳の誕生日を迎えました。8月11日には、特別養護老人ホーム平安荘(井上義一理事長)で佐々木さんの100歳を祝う会が開かれました。会では、沼崎喜一町長から長寿祝い金が贈られたほか、平安荘からパースデーケーキが用意され、佐々木さんがろうそくを吹き消すと出席した皆さんからお祝いの拍手が送られました。また、26日には齊藤さんの自宅を沼崎町長が訪問し、長寿祝い金を手渡しました。90歳過ぎまで現役で大工仕事をするなど、とても元気な様子の齊藤さん。お祝いに訪れたご家族やお弟子さんから温かい祝福を受けていました。

戦没者追悼式に250人 冥福祈り恒久平和を誓う

8月23日、山田町戦没者追悼式が町中央公民館で開かれ、遺族や来賓など250人が出席しました。黙とうの後、主催者を代表して沼崎喜一町長が「先の大戦で数多くの方々が犠牲になられたことは、私たち国民にとって深い悲しみです。平和の尊さを忘れることなく、全町民の幸福を願って、その福祉に万全を期すべく努力することを誓います」と式辞。続いて昆暉雄町議会議長、藤原一二三県遺族連合会長、山崎幸男町戦没者遺族連合会長らが追悼の言葉を述べました。この後参加者全員が祭壇に白菊をたむけ、戦没者の冥福を祈るとともに永遠の平和を誓いました。



中央町の東海林さん シーサイドから風景画贈る 心癒やす絵画鑑賞を楽しんで

中央町の東海林榮治さん(82) =写真左=から、介護老人保健施設シーサイドから(近藤勝雄施設長)に絵画が寄贈されました。「三陸の景」と題したこの作品は昭和62年に制作されたもので、大きさはP100号(縦1.1m×横1.6m)、タブの大島の千畳敷が描かれています。8月5日に同施設を東海林さんが訪れ「利用者の皆さんに絵を楽しんでもらい、心を癒やすお手伝いになれば」と近藤施設長に絵画を贈りました。近藤施設長は「ありがとうございます。10月に開催するかの文化祭で展示して、来場者にも楽しんでもらいたい」とお礼を述べました。

商工会青年部で第2回花火大会 湾内を彩る花火に盛んな拍手

8月15日、山田町商工会青年部(山崎和大部長)が主催する花火大会が行われました。2回目となる今回は、町内70カ所に募金箱を設置したほか、町内企業や団体から協賛を募り花火大会が開催されることになりました。会場となった山田漁港では、大会に先立ちのど自慢大会が開かれ、参加者らは自慢の歌声を披露していました。打ち上げ時刻の午後8時になると、会場は町内外から訪れた観客で埋め尽くされました。この日打ち上げられた花火は大型の芸術玉をはじめ、海の上に広がる水中花火など、およそ3000発。山田中学校校歌や演歌、歌謡曲などをテーマにしたスターマインも行われ、訪れた人たちは湾内を美しく彩る花火が上がるたびに歓声を上げ、盛んな拍手を送っていました。

